

## 「ISOEデータベースを用いた集団線量傾向分析」

Ms. Lucie D'ASCENZO (CEPN/ISOE 欧州技術センター, フランス)

ISOE データベースには、運転中あるいは廃炉のある段階にある商業用原子力発電所の線量情報を含んでいる(年間総集団線量、停止時集団線量、作業毎の線量、等)。また、データベースは線量傾向の分析のための確実な情報を提供している。

MADRAS はベンチマーク・ツールとして ISOE データを使用したデータ分析ソフトであり、MADRAS 解析モジュールは、ユーザーからのフィードバックやリクエストに基づいて毎年改良している。2013 年計画には MADRAS の新たな分析として、停止時のベンチマークを改良するための新クエリの設定を予定している。

この発表は、あらかじめ定義された MADRAS 分析を使用した、いくつかの集団線量傾向の分析例を紹介している。図表例は、全て自動化された線量レポートにより、職業被ばく、プラント間や姉妹ユニット間のベンチマークなどの主な傾向の分析が容易にできることを示している。分析は、地域ごと、原子炉型式ごと、姉妹ユニットごと、四分位ごと、等の様々なレベルで容易に行うことが可能である。

